慶長の大火縄銃の製作者について

メモ）鉄本　2024. 04. 12

慶長の大火縄銃について、ボランティアに伝わっていない点があるようなので判る範囲で情報をまとめました。

（『博物館研究報告第32号　吉田豊氏論考』を参考にまとめています。）

1. 大火縄銃の外観

【からくり部】

下の写真は堺市博物館 HP より

からくり部のヘアピン状の金具は、弾金（はじきがね）でバネの力で、火鋏（R の金属）を落とす。

この仕組みは「**外カラクリ**」と呼ばれる方式で、他に「**内からくり**」と呼ばれるゼンマイバネを銃身に内蔵した仕組みがある。

2. 製作者

銘文に書かれている内容によると次の通りです。

①銃身部（鉄製）　砲筒銘：銃身に江州国友住国友重当甚兵衛作　（くにとも　しげまさ　じんべえ）

銘の確認について；銃身が重みのため銃床に食い込んで実物確認はされていないが『国友一貫斎文書』で確認されている。

②からくり部（真鍮製）　からくり銘：羽子板（カラクリの地板）に摂州生国堺于時和歌山住鎌倉屋藤兵衛作

（読み下し；堺生まれで時に和歌山に住む　＊于時は「ときに」と読む）　慶長十五年戊ノ三月五日

何故、和歌山住の鍛冶か？　当時の和歌山藩主は浅野幸長で稲富一夢の門弟であった。その関係か？

③銃床部（樫製）　☜　製作者不明

④象嵌などの仕上げ　☜　堺鍛冶と推測されている。

3. 銃身上面の象嵌文

・「臨・兵・闘・者・皆・陣・烈・前・行」　☜『抱朴子』記述　晋の葛洪が唱えたもの

＝　九字護身法（修験道における呪文で、除災戦勝等を祈るもの）

＊大火縄銃には「臨兵闘者皆陳烈（列）在前」の表記　　陳＝陣と同義

九字（『九字護身法』博文堂庄左衛門 1881年2月）

・「念彼観音力　衆怨悉退散、鉄砲一声叫、怨敵蹋天踏地」

＝　「ねんぴかんのんりき　しゅうおんしったいさん」（法華経の中の観音経の一部

意味は、観音様にお祈りすればあらゆる敵は退散する）

「てっぽうひとこえさけび　おんてききょくてんせきち」（“蹋天踏地”は詩経の一部

鉄砲の音に敵は恐れて身の置き場もないだろうという意味）

・「南無愛宕山大権現」 ＝ 愛宕権現は愛宕山の山岳信仰と修験道が融合した神仏習合の神
勝軍地蔵が垂迹した軍神として武士の信仰対象となった。

・「捻(総)捲稲富一夢(花押)」 ＝ 捻(総)捲(そうまくり)とは、対象とするもの全体を評価すること。
(総監督或いは総合プロデューサー的役割と考えられる)

一夢は、稲富祐直の入道後の号。 一夢斎又は一夢理斎と号した。

大火縄銃が製作された年(慶長15年 1610年)の翌年(1611年)に没す。

4. 大火縄銃の仕様

・全長 300cm 口径 **32mm** (鉄砲玉のサイズは、**50匁玉**(径31. 364mm)になる)

【参考】 **種子島初伝銃** 全長100cm 口径17mm (種子島時邦氏蔵 種子島開発総合センター寄託)

矢板金兵衛初作銃 全長100cm 口径14mm (同上)

徳川家康所用銃 全長140. 5cm 口径22mm (久能山東照宮博物館蔵)

芝辻砲 全長3. 13m 口径95mm (靖国神社遊就館蔵) 玉は1貫目玉相当のサイズ

5. 徳川家康による大口径銃の発注

徳川家康は、「大坂冬の陣」を控え、慶長14年、15年に稲富一夢を通して国友鉄砲鍛冶に大口径の遠距離銃を発注している。 慶長14年(1609) 50匁玉銃 7挺 ⇒ 慶長15年7月完成

15年(1610) 同上 86挺 ⇒ 慶長17年11月完成

6. 慶長の大火縄銃が堺市博物館に来るまで

宇津木家 ⇒ 国友藤兵衛一貫斎/国友藤平能恭蔵(幕末～大正8年) ⇒ 長浜)中村寅吉(昭和初めまで) ⇒ 大阪)上田綱治郎蔵(昭和40年頃) ⇒ 堺の所蔵家 ⇒ **平成15年堺市博物館に**

【参考】 国友の鉄砲鍛冶マップ
(国友村の観光案内説明板より)